

# A 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における育成をめざす「資質・能力」

## 育成をめざす「資質・能力」

◎ 造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解するとともに、表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、味わったりする力を育てる。
- (3) 創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

※ 別添9-1「図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において育成を目指す資質・能力の整理」（別添資料P.50）及び別添9-2「図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における教育のイメージ」（別添資料P.54）より作成

(1) 知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力 (3) 学びに向かう力・人間性等

### 資質・能力を育成する学びの過程

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の資質・能力を効果的に育成するために、表現や鑑賞の学習の中で知識を結びつけたり活用したりしながら相互に働くようにし、①発想や構想の能力、②創造的な技能、③鑑賞の能力が主体的に学ぶ意欲や感性などと往還して、形や色などの特徴やイメージなどに関わることを重視することが大切です。

資質・能力を育成する学びの過程は、児童生徒の状況や題材構成等に応じて異なります。児童生徒が課題を解決した達成感や、実践する喜びを味わい、次の学びに主体的に取り組めるよう、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の学習全体を見通して、資質・能力を育成する学びの過程を計画的に位置付ける必要があります。



### 各学校で考えてみましょう

▶ 別添9-1「図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において育成を目指す資質・能力の整理」を読んで、具体的な題材又は単元の目標を設定してみましょう。

## B 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における「見方・考え方」

### 「見方・考え方」

図画工作科、美術科、芸術（美術、工芸）の「見方・考え方」の特徴は、知性と感性の両方を働かせて対象や事象を捉えることである。知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくことが、他教科等以上に芸術系教科・科目が担っている学びである。また、個別性の重視による多様性の包容、多様な価値を認める柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくこと、自分の感情のメタ認知なども含まれており、このときに働かせるのが「造形的な見方・考え方」です。

#### 【造形的な見方・考え方】

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

図画工作科、美術科、芸術（美術、工芸）の学習では、「造形的な見方・考え方」を働かせて、表現と鑑賞の相互の関連を意識した活動を行い、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習を充実することが求められています。



なお、学びの過程において困難さを感じる児童・生徒への対応も必要です。

◇ 指導の工夫、手立ての例については、こちらまで 

[クリック](#)

#### 各学校で考えてみましょう

- ▶ 「造形的な見方・考え方」を働かせつつ、表現と鑑賞の資質・能力を相互に関連させて育成する活動例を考えてみましょう。

# C 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における教育内容の改善・充実～科目構成の見直し～

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）では表現や鑑賞の活動を通して、創造することの楽しさを感じるとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐむことなどを重視しています。また、小学校図画工作科、中学校美術科において領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を整理し、〔共通事項〕として示しています。

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の「改訂」の方向性は以下のように示されています。



## 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における課題

- ・感性を働かせて思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成する。
- ・子どもたちの興味や関心の高まりを資質や能力の向上に生かすような指導の改善を図ること。
- ・生涯にわたって美術に親しみ、生活や社会に生かしたり、豊かにしたりする態度の育成。
- ・感じ取ったことをもとに、自分の思いや考えを大切にしながら、自分なりの意味を発見するなどの鑑賞の学習の充実。
- ・我が国の文化等にかかわる学習を通して、その継承や創造への関心を高めるとともに、諸外国の文化のよさを理解することなどが求められている。

現状の課題から「改訂」への方向性

### 小学校図画工作科

- ・育成する資質や能力を整理し、表現や鑑賞が関連して働くような内容の改善
- ・領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を〔共通事項〕とする
- ・感じ取ったことを伝え合う活動を児童の発達に応じて整理して示す
- ・鑑賞では、よさや美しさなどを判断する活動の充実
- ・作品などのよさや美しさを主体的に味わったり感じたりすることを重視

### 中学校美術科

- ・育成する資質や能力を整理し、表現や鑑賞が関連して働くような内容の改善
- ・領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を〔共通事項〕とする
- ・他者や社会に向けて表現する学習を一層重視する
- ・鑑賞では、自分なりの価値意識を作りだせるよう批評し合う活動を重視
- ・鑑賞に充てる授業時数の確保
- ・我が国の美術についての学習を重視

### 高等学校芸術科（美術、工芸）

#### 美術Ⅰ、工芸Ⅰ

- ・関心や理解を高めるとともに、我が国の美術や文化についての学習の重視
- ・鑑賞に充てる授業時数を十分に確保するようにする

#### 美術Ⅱ、工芸Ⅱ

- ・実感を伴って美術、工芸についての理解を深める
- ・表現領域のいずれか一つ以上の分野と鑑賞領域を学習するようにする

#### 美術Ⅲ、工芸Ⅲ

- ・現行と同様に表現領域の各分野及び鑑賞領域から一つ以上を選択して学習

※科目の履修については現行と同様